

「データサイエンティスト養成履修カリキュラム」自己点検・評価

評価日時：2021年4月27日（火）

（会議名称：琉球大学数理データサイエンス教育普及展開事業運営委員会）

開催場所：グローバル教育支援機構ミーティングルーム

目的：令和2年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム自己点検・評価、他

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

No.	自己点検・評価の視点	評価結果	評価理由
1	プログラムの履修・修得状況	A	データサイエンティスト養成履修カリキュラムの履修状況を分析し、受講者毎の講義演習進捗状況や課題への回答状況を琉球大学数理データサイエンス教育普及展開事業運営委員会が把握し、改善に向けた取り組みを行っている。
2	学修成果	A	データサイエンティスト養成履修カリキュラムにおいて、科目レベルで授業評価アンケート等の項目を分析することによって、授業内容の学生の理解度を把握することができ、その結果を琉球大学数理データサイエンス教育普及展開事業運営委員会と連携し、本プログラムの評価・改善に活用している。
3	学生アンケート等を通じた学生の理解度	A	データサイエンティスト養成履修カリキュラムにおいて、受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、個々の学生の理解度を分析している。理解度の分析に基づき、次年度の授業内容や科目を柔軟に見直し、データサイエンスへの関心を促す内容やプログラミング技能の修得に特化した内容を強化するなど、理解度に応じた改善に努めている。
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	授業評価アンケート自由記述欄から、データサイエンスの知識と技能の修得に対し受講者が高い関心を示していることを確認しており、受講者がデータサイエンス科目を他の学生や後輩学生に受講を促すなどの事例が確認されている。また、データサイエンス事業並びにデータサイエンティスト養成履修カリキュラムの専用ウェブページにおいて、受講の感想等の意見を掲載し、講義受講の推奨に活用している。
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	令和2年度に策定した「琉球大学における数理データサイエンス教育に関する基本方針」に基づき、令和3年度以降、計画的に各学士プログラムにおける数理データサイエンス教育科目の体系化に取り組むこととし、各プログラムでの数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の育成に向けた大学教育システムの構築を行い、全学的な履修者数、履修率向上に向けた取組みを推進している。
6	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	—	令和2年度末時点で、カリキュラム修了者が輩出されていないため、現時点では評価が出来ないが、修了者が輩出され次第、その就職先等への調査を通じて、修了者の活躍状況、企業からの評価を行うこととしている。
7	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	本学において開催した「数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム」等においてデータサイエンス人材の育成に対する意見を収集するとともに、産業界ニーズの把握及び、それらの教育プログラムへの反映を目的とし、「琉球大学数理・データサイエンス人材事業に関する企業ニーズ調査」と題し、過去5年間のうち本学より2人以上の学生が就職した民間企業及び本学教員とかわりのある県内外企業405社にアンケート調査を行い、政府方針「AI戦略2019」への関心や、データ活用が可能な人材需要及びその業種、データ活用が可能な人材に期待する能力等を調査している。カリキュラム修了者が輩出された場合は、その就職先等へも調査を行うこととしている。
8	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	A	琉球大学数理データサイエンス教育普及展開事業運営委員会を中心に作成した、モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を含めた教育コンテンツの展開や、令和3年度からは「データサイエンス概論」において、スポーツ、社会経済、生物・生態、製造、在庫管理など様々な分野における最先端のデータサイエンスに関する研究を講師の先生に紹介してもらい、背景(ドメイン)知識、データの取得から下処理・分析・モデリングの方法、そして実社会への応用などを学ぶことによってデータサイエンスの知識を深める講義を行うこととしている。
9	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	A	データサイエンティスト養成履修カリキュラムにおいて実施している、授業評価アンケートや企業調査の結果を踏まえて、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とできるよう、事業運営委員会や学部教務委員会等で内容・実施方法の検討を行っている。また、データサイエンスの活用事例は豊富に紹介する導入部分の充実や、受講者のログを解析し、学生の分かりにくい点を把握し、教育方法の改善に活かす取組を進めている。

- S: 審査項目の観点を上回る成果を達成した。
- A: 審査項目の観点通りの成果を達成した。
- B: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。
- C: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けての対応策が立案されていない。